

WAIS-III簡易実施法の 精神科臨床での利用

○春名大輔, 中島公博, 千丈雅徳
(医療法人社団五稜会病院)



WAIS-Ⅲ



簡易実施法

日本版WAIS-Ⅲ刊行委員会（藤田ら，2011）

- 2尺度，4尺度，Ward法という複数の方法が存在する。
- 推定IQ（以下，SFIQ）が全検査IQ（以下，FIQ）を予測可能であるか，精神患者を対象とした検討は乏しい。

目的

本研究では、3種類のSFIQがFIQを予測可能であるか、どの程度の差が生じるかを検討し、SFIQの臨床利用について考察した。

本研究はデータは統計的に処理し、個人が特定されないよう十分に配慮した。また、当院倫理委員会の承認を得て実施した。

倫理的
配慮

対象者

- 知的水準の測定を目的にWAIS-IIIを実施した95名（平均年齢：30.43±10.33歳）の結果を分析の対象とした。
- 対象者の診断をFig 1に示した。

方法：診断の内訳

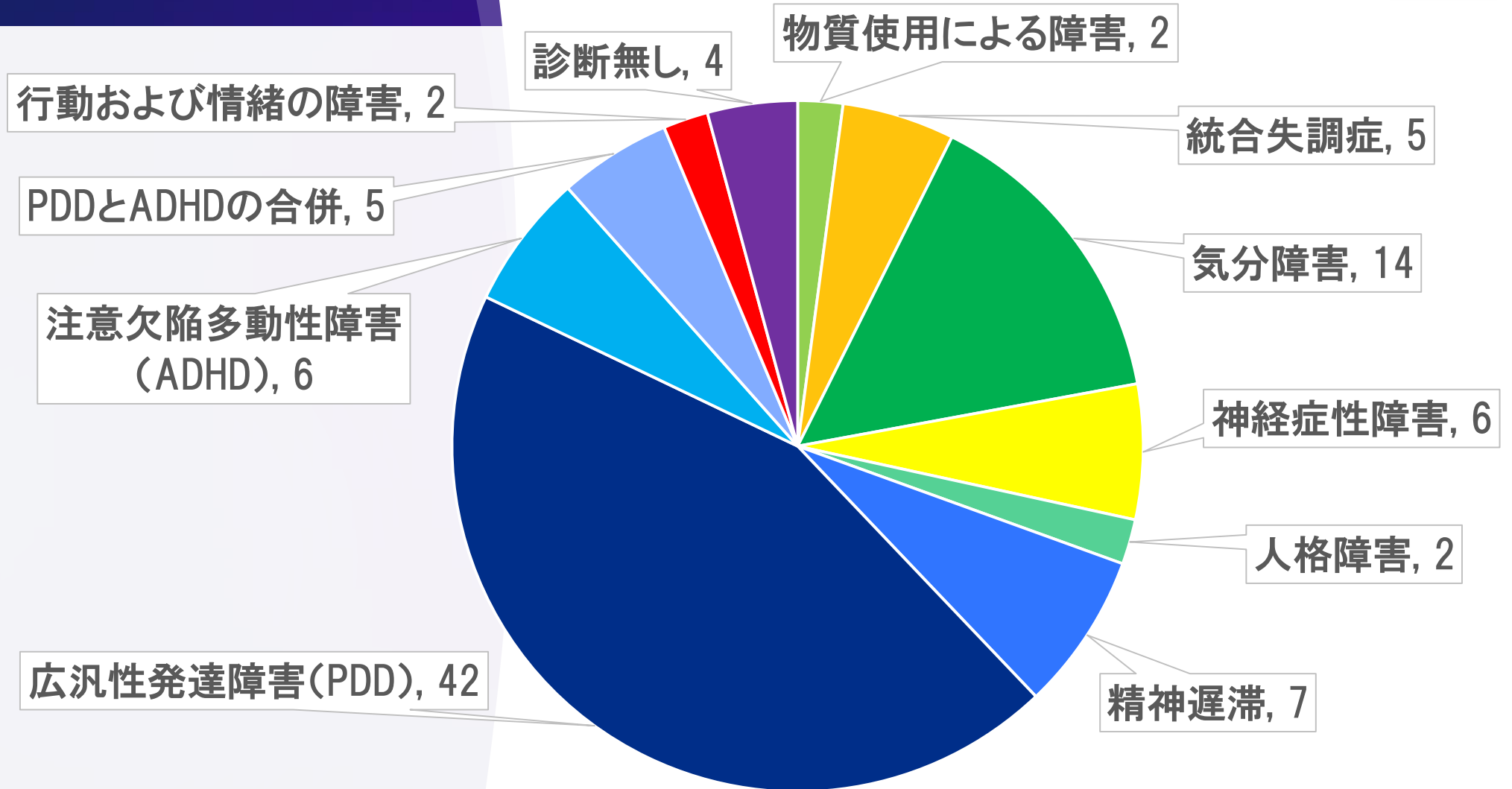


Fig1.対象者の診断の内訳

方法：分析

推定IQの算出

- 大六ら（2009）が示した式を用いて，2尺度および4尺度によるSFIQを算出。また，Pilgrim, B.M. et al（1999）が示した式を用いてWard法によるSFIQを算出。各IQの記述統計をTable1に示す。

分析方法

- SFIQがFIQを予測可能かを検討するためにSFIQを説明変数，FIQを従属変数とした単回帰分析を実施。
- SFIQとFIQの差を算出し，記述統計（Table2）および度数分布（Fig2）によってSFIQとFIQの差を検討した。

結果：記述統計

Table1.各SFIQの平均値，標準偏差，最大値，最小値

	Average	SD	Maximum	Minimum
FIQ	89.44	15.82	126.00	47.00
2尺度SFIQ	93.85	21.02	137.00	45.00
4尺度SFIQ	88.06	17.82	124.00	38.00
Ward法SFIQ	88.01	16.06	121.00	48.00

結果：回帰分析

2尺度によるSFIQ

- 相関係数および決定係数は有意であった ($R = .863$, $R^2 = .745$, $p < .001$)。

4尺度によるSFIQ

- 相関係数および決定係数は有意であった ($R = .916$, $R^2 = .840$, $p < .001$)。

Ward法によるSFIQ

- 相関係数および決定係数は有意であった ($R = .962$, $R^2 = .926$, $p < .001$)。

結果：記述統計

Table2.各SFIQとFIQとの差の平均値, 標準偏差, 最大値, 最小値

	Average	SD	Maximum	Minimum
2尺度 SFIQ間	4.40	10.87	34.00	-22.00
4尺度 SFIQ間	-1.38	7.15	14.00	-27.00
Ward法 SFIQ間	-1.43	4.38	9.00	-13.00

結果：度数分布

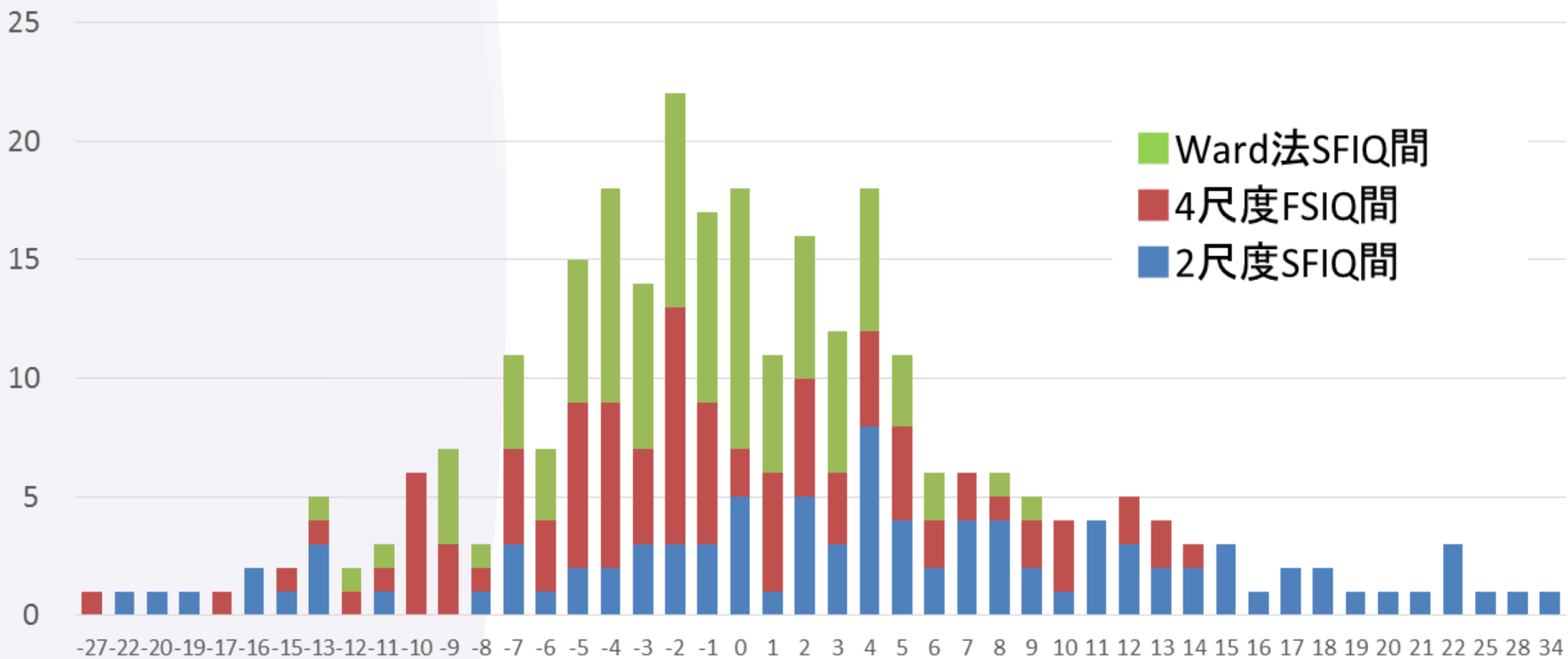


Fig2.各SFIQとFIQとの差の度数分布

全てのSFIQはFIQの予測に有益

- 回帰分析の結果は全て有意であり，SFIQはFIQの予測に有益であることが示唆された。精神疾患を対象とした場合にも有用と考えられる。

下位尺度の数が増えれば，推測の精度は上がる

- 回帰分析の結果および平均値や度数分布を検討した結果，推測に用いる下位尺度数が増えれば，推測の精度も上がることが示唆された。
- 藤田ら（2011）のまとめにおいても用いる下位尺度数が多い方が，信頼性係数や妥当性係数が高まることが示されており，それらは精神疾患患者にも当てはまると考えられる。

所要時間を考慮した臨床利用

- 多くの下位尺度を用いた推定の方が精度は上がる反面、検査に要する時間が増す。
- Ward法ではおよそ1時間程度を要する。4尺度による推定は20分～30分程度である。
- 患者の状態、現実の臨床で確保可能な時間を考慮し、適した推定方法を採用することが望ましいと考えられる。

まとめ

- 各簡易推定法は精神疾患を対象にした場合においても，FIQの推定に有益と考えられた。
- 多くの下位尺度を用いる方が推定の精度は増すが，検査に要する時間も増えるため，実際の臨床に適した方法の選択が必要と考えられる。

課題

- 本研究の分析対象は疾患に偏りを有している可能性がある。今後はより幅広い疾患のデータを収集し検討することが望ましいと考えられる。

引用文献

藤田和弘・前川久男・大六一志・山中克夫（2011）．日本版WAIS-Ⅲの解釈事例と臨床研究 日本文化科学社

大六一志・山中克夫・藤田和弘・前川久男（2009）．日本版WAIS-Ⅲの簡易実施法（2）—全検査IQを推定する方法の比較— 日本心理学会第73回大会発表論文集，433

Pilgrim,B.M., Meyers,J.E., Bayless,J., & Whestone,M.M. (1999) Validity of the Ward seven-subtest WAIS-Ⅲ short form in a neuropsychological population. *Applied Neuropsychology*, 6 (4), 243-246.